

### 第3学年〇組 国語科学習指導案

平成23年〇月〇日 (〇) 〇校時

指導者 〇〇小学校 〇〇〇〇

1 単元名 民話や物語の組み立てを考えよう 「三年とうげ」「とらとおじいさん」

2 単元について

(1) 児童の実態について (男子\*\*名、女子\*\*名、計\*\*名)

読書が好きな児童は、図書室や学級の本だけでなく家庭から自主的に本を持ってきて、クラスの児童にも紹介するなど日常的に本によく親しんでいる様子が見られる。一方、読書をあまり好まない児童もいるなど、日頃の読書の様子を見ても個人差のあることが分かる。5月に実施したアンケートによると、「物語を読むときに気をつけること」については、「登場人物の気持ち」が\*\*名、「会話文」が\*\*名、「話の順序」が\*\*名と、登場人物の気持ちを考えたり、話の順序や展開を意識して物語を読もうとしたりする意識が低いことが分かる。

これまでに児童は、「きつつきの商売」では、様子や音を想像して音読の仕方を工夫する学習、「海をかつとばせ」では、主人公の人物像を考える学習をしてきた。「一人調べ」においては、教科書の大事な部分にサイドラインを引き、その文をもとに主人公の気持ちやその文からわかることを書き込む学習を行ってきたが、根拠となる言葉に着目した読みは不十分である。「学び合い」においては、児童が自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えと自分の考えを比べて聞いたりして、自分の考えを深めることができるように取り組んできた。7割以上の児童は意欲的に発表しようとしているが、そうでない児童も見られ、一時間の授業の中で一度も発言できない児童もいる。これは、自分の考えに自信がなくて発表できないという側面もあり、ペア交流や自由交流の場を設定しているところである。「民話や物語の組み立て」や「比べ読み」についての学習は初めてであるが、いつ、どこで、誰が、何を、どうした、という話の骨格をつかむ学習は繰り返し学習してきている。

(2) 教材について

#### 【指導事項】

ウ 物語の組み立てをとらえ、登場人物の気持ちの変化や情景を想像すること。 (読むこと)  
オ 物語を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気づくこと。 (読むこと)  
イ(オ) 文章における言葉の使い方に気を付けて、理解するために必要な語句の量を増やし、使い方の範囲を広げること。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

#### 【言語活動】

二つの作品を比べ読みしたり、他の民話や物語を読んで組み立ての型について感想を述べ合ったりして、民話や物語の組み立ての型をとらえ、物語を書くこと (読むこと・書くこと)

「三年とうげ」では、場面がテンポよく展開し、登場人物の性格もはっきりと描かれているので、場面の移り変わりに注意しながら登場人物の気持ちの変化を読み取ることに適している。また、対句的に表現された美しい眺め、調子の良い言い伝えなどにより、児童は、楽しみながら場面の情景を思い浮かべることができる。さらに、トルトリという知恵者の機転で不運を幸せに転じたとんち話の側面もあり、昔の人々のおおらかな心情は、時代を超えて児童にも伝わるだろう。

「とらとおじいさん」では、とらに食べられてしまっても仕方がないと思っていたおじいさんだったが、とらは、知恵者であるきつねのとぼけぶりにまんまとはまり、おりの中に入ってしまう。きつねの真骨頂に思わず笑いを誘われる楽しさがある作品である。

この二つの作品は、どちらも「とんち話」として楽しめる物であると共に、「はじまり(場の紹介)・「事件の起こり」・「出来事の変化」・「むすび(出来事の解決、その後)」という構成がとらえやすい。民話や物語の組み立ての型を一般化するため比べ読みをし、共通点を探り、物語の組み立ての型を考えるのにふさわしい教材である。

### (3) 指導について

本単元では、「二つの作品を比べ読みして組み立ての型をとらえ、それをもとに他の物語を読んで、組み立ての型について考え、感想を述べ合うこと」を言語活動として設定している。さらに、そのことを生かして、次の小単元の「組み立てを考えて物語を書く」言語活動に繋げて行く。これに迫るために、この単元で身につけさせたい力を3つあげた。

- 物語の組み立ての型をとらえる力
- 登場人物の気持ちの変化や情景を想像する力
- 一人一人の感じ方について違いのあることに気づく力

以上のような力をつけ、目指す児童像に迫るために次のような手立てをとって指導していきたい。

#### 「手立て1」目的意識を持ち、積極的に取り組むための課題設定の工夫・・・研究内容(1)－①

- ① 「二つの物語の共通点から組み立ての型をとらえること」を単元全体を貫く課題とし、次の小単元で「物語を書く」ことに生かすという目的意識を持たせる。
- ② 物語の組み立てをとらえさせるために、主人公の心情の変化を、場面ごとに表情の絵で表現する。

#### 「手立て2」自分の考えを持ち、読みを広めたり深めたりするための話し合い活動への支援

・・・研究内容(1)－③④ (2)－①

- ① 一人調べでは、ワークシートを活用したり、ヒントカードで支援したりして、自分の考えを持てるようにする。
- ② 自分の考えと比べながら聞き合うことができるように、ハンドサインで示させ、相手の話を受けて話題に合わせて話すことができるようにする。
- ③ 必要に応じてペアでの話し合いを取り入れ、友達と交流させることで、考えを深めさせたり発表への意欲と自信をつけさせたりする。

#### 「手立て3」成果を自覚できるようにするための場の設定・・・研究内容(2)－①

- ① 板書構成の工夫として、学習が深まるきっかけとなる大事な言葉や文を視覚的に配置し、学習の流れを明確にすることで、より深いまとめができるようにする。
- ② まとめ時間を確保することにより、一人一人に学習の成果を自覚させる。一人調べでの自分の考えが、話し合いを終えて、どう変わったかを書かせることで、一人一人の感じ方には違いがあることに気づかせ、自分の学びが初めより広まったり深まったりしたことが分かるようにさせる。
- ③ 学習カードで、観点別・感想欄のある自己評価をさせ、自己の良さや変容をみつめさせる。

本時では、「手立て1－②」「手立て2－①」「手立て3－①」に重点を置いて学習を進めていきたい。前時までの物語の組み立てから、二つの作品を比べ読みし、物語の型をとらえさせる学習となる。そこで、二つの作品の似ているところを見つけさせるために、板書構成を工夫し、「どんなおじいさん」であるかと「その根拠」などを比較するという視点をはっきりさせて取り組ませたい。

### 3 単元の目標と指導計画

#### (1) 単元の目標

- ☆ 物語の組み立ての型をとらえ、登場人物の気持ちの変化や情景を想像することができる。
- ☆ 物語を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気づくことができる。

- 物語の組み立てに興味を持ち、進んで学習に取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度)
- 物語がどのように組み立てられているかを考え、整理しながらよんでいる。 (読むこと)
- 物語を読んで感想を交流し合い、感じ方の違いに気づいている。 (読むこと)
- 文章中で使われている言葉に着目し、表現するための語句を増やしている。 (伝国)

#### (2) 指導計画 (総時数 7 時間)

段階	時間	学習のめあて (学習活動)	観点	主な手立て	大切な語句
第一次	1	学習課題を設定し、学習計画を立てよう。			
	①	民話や昔話を読み、次の小単元まで見通した計画を立てる。	読	1-①	物語の組み立て 比べ読み
第二次	5	「三年とうげ」と「とらとおじいさん」の組み立てを整理し、共通点を考えて、物語の型をまとめよう。			
	①	「三年とうげ」を「はじめ」「出来事が起きる」「変化する」「結び」の組み立てに整理する。	読	2-① 3-③	「はじめ」「出来事が起こる」「変化する」「結び」の組み立て・言い伝え・三年きりしか生きられぬ・真っ青・すっこんで・しがみつきの・おいおい・どうしよう・とうとう・どんどん重く・もぐりこみ・顔を出した・はね起きた・わざと・すっかり・言うとおりの・もう一度・長生き・めでたい・何度も転べば・うんと長生き
	②	「三年とうげ」のおじいさんの気持ちの変化に着目し、物語の展開をより明確にする。	読	2-①・②・③ 3-②・③	
	③	「とらとおじいさん」を「はじめ」「出来事が起きる」「変化する」「結び」の組み立てに整理する。	読	2-① 3-③	「はじめ」「出来事が起こる」「変化する」「結び」の組み立て・繰り返し・対句表現・そんな、むちゃな・・・なんて・聞いてくれよ・なげきなさんな・いや、まだまだ・さっぱり・こんがらがって・ちえ者・ゆかいゆかい
	④	「とらとおじいさん」のおじいさんの気持ちの変化に着目し、物語の展開をより明確にする。	読	2-①・②・③ 3-②・③	
	⑤	「三年とうげ」「とらとおじいさん」を比べ読みし、共通点を考え、物語の型をまとめる。	読	1-② 2-① 3-①	組み立て 比べ読み
第三次	1	自分が選んだ本の組み立てを調べ、友達に伝えよう。			
	①	図書室などで民話や物語を探して読み、組み立てや感想を交流する。	関 読	1-① 3-②	

4 本時の学習について

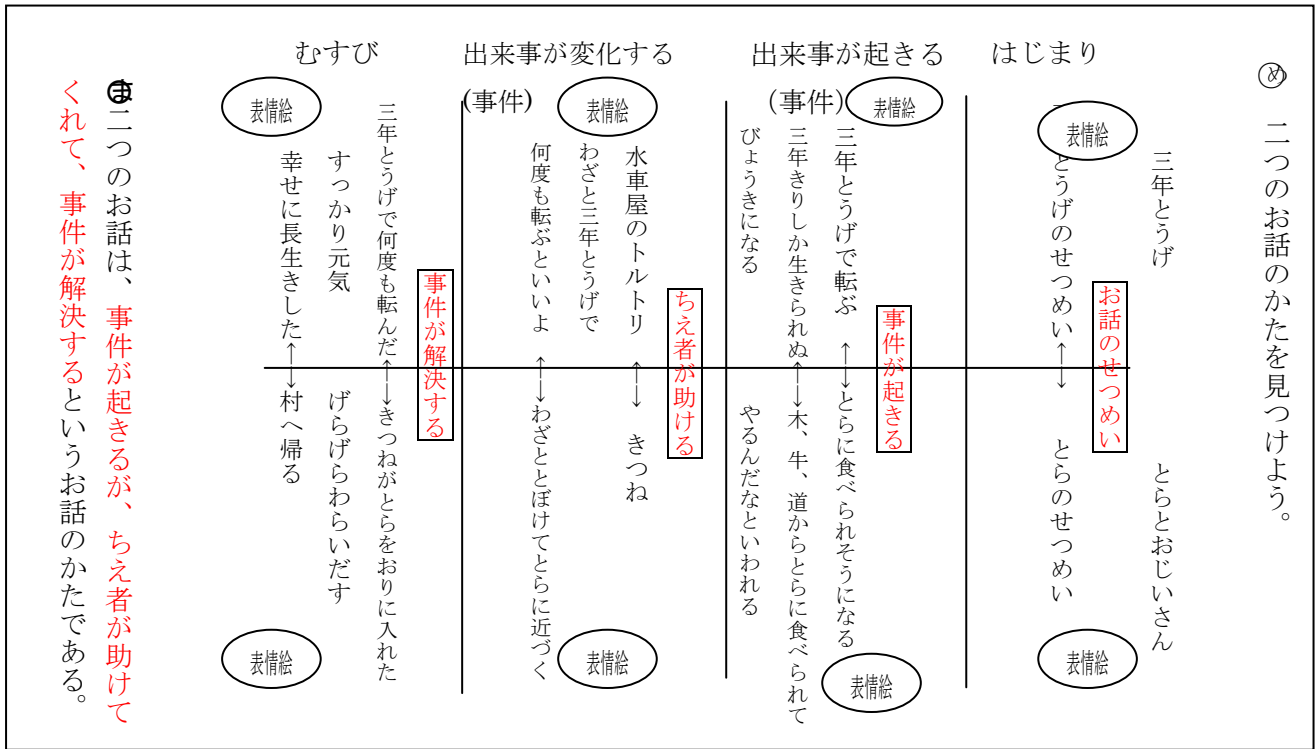
(1) 本時の目標

○「三年とうげ」と「とらとおじいさん」を比べ読みし、共通点を考え、物語の型を探ることができ  
きる。 (読むこと)

(2) 学習過程

段階	学習活動・内容	時間	○指導上の留意点 ☆個への支援	◎手立て □評価
導入 展開	<p>1 本時のめあてを確認し学習の見直しを持つ。</p> <p>(1) 前時までの学習を振り返る。</p> <p>(2) 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">◎二つのお話の型を見つけよう。</div>	5	○ 二つの作品の組み立てがわかるように、前時まで学習したことを掲示しておき、振り返る。	◎ 物語の型を学習し、次単元で、物語を作るということを意識させて、めあてを確認する。
	<p>2 二つの作品を比べ読みし、似ているところを見つけ、物語の型を考える。</p> <p>(1) 一人調べをする。</p> <p>(2) 全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物について</li> <li>・出来事について</li> <li>・人物の気持ちについて</li> <li>・お話の型 「事件→知恵者の登場→解決」</li> </ul>	30	◎ 前時までのワークシートや掲示物を活用し、にているところを見つけさせる。	○ 比較する視点として、登場人物・出来事・人物の気持ちという視点を示して取り組ませる。
開 展			☆ 下位児には、表情の絵を比較するよう助言し、おじいさんの気持ちの変化に気づかせる。	○ 出てきた意見を、分類しながら板書し、視覚的にとらえやすくする。
			○ 話し合いに積極的に参加し、自分の考えと比べながら聞き合えるように、ハンドサインで示させる。	◎ おじいさんの表情の絵や大事な言葉や文などから、物語の型が同じであることに気づかせる。
終末	<p>3 本時のまとめと次時の確認をする。</p> <p>(1) 本時でわかったことや感想を書く。</p> <p>(2) 次時の学習を確認する。</p>	10	◎ 物語の型について、新たに分かったことを中心にまとめさせ、学習の成果を自覚させる	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">二つの作品のにているところを見つけて、物語の型をとらえることができたか。</div> <p style="text-align: right;">(観察・発表・ワークシート)</p>

(3) 板書予定図



おむすび ↓  
おむすび ↓  
変化する ↓  
出来事 ↓  
三年のせつめのい

1 三年とうげ 名前

● 三年とうげ」のないようを短くまとめて書きましよう。

① はじまり ・場所 ・人物	② 出来事 ・どうした	③ 出来事が 変化 ・新たな人 物がどう した	④ 出来事が 解決 ・どうやっ て ・その後ど うなった
● 三年とうげはあまり高くないならかなと うげで三年とうげでころぶと長生きしたくも めだした。 ● おじいさんがあんなに気を付けて歩いていたらに 石に踏まずい転んでしまいました。おじいさん 言っただえをしんど病気がなりました。	● 水車屋トルトリが家にきて病気のなか す方法を教えた。わざと何回もころ ぶ	● わざとひっくり返りころんだ。 ● そろそろうちに病気がなあっ た。そしておはあさんと二人たな かよく幸せにくらししました。	

● いちばんおもしろいと思ったところはどこですか。友だちとも話し合ってみましよう。

2 三年とうげ 名前

● おじいさんの気持ちは、どのようにかわっていったのでしょうか。おじいさんの様子もそうぞうして書いてましよう。

④ 4 むすび	③ 3 出来事が変化する	② 2 出来事が起きる	① 1 はじまり	場面	おじいさん	そのときの気持ち
三年とうげ でもう一度 転ぶおじい さん。	トルトリの 話を聞いて て...	三年とうげ で転んでし まった。	はじまり	おじいさん	おじいさん	ものすくはいけしき たなう(き水いなけし きにうとりしている 三年しか生きころ水 ないどうしよう。 ばあさんやたすけ てくれどうす水は なんじよ！わしに 早く死ねとさう のか！わしの病気 が直るのか！長生 もといじゅうちをの はして長生きしよ う。わしは幸せじゃ

3

とらとおじいさん

名前

●「とら」とおじいさんの「のな」より書き短く姓をめて書きましやう。

① はじまり 人物	② 出来事 ・どうした	③ 出来事 が変化 ・新たな人 物がどうし た	出来事が 解決 ・どうやっ て ・その後ど うなった
組立て このせつ名はばりんぼうのてきびつ 見事な里いしよ・長い長いしほ 人物はとら おじいさん 木手道におちや ではないが聞くせらに食らわ てやるんだな。このはんめし きつね おじいさんを助けた。し かけた。うまくわたまをしかけた ・きつねがとらをおりに入れた。	おじいさん、うっかり、しんせつ きつね、知恵者、しんじやうい おじいさんはげらげらわらいだ す。きつねのしかけにちやと気が ついた。	ゆかいゆかい	

あきらめた  
→ になる





● いちばんおもしろいと思つたところをひかすか。友だちとち  
話し合つてみましよう。

4

とらとおじいさん

名前

● おじいさんの気持ちは、どのようにかわつていったのでしょうか。おじ  
いさんの様子もそうぞうして書いてみましよう。

④ むすび	③ 出来事が変化する	② 出来事が起きる	① はじまり	場面
げらげらわ らいだすお じいさん。	きつねの話 を聞いて て・・・	とらをおり から出して しまつた。	はじまり	おじいさん
				
言わないう！ にありがとつを よかつた！本当 きつねをしんじて 話をするんだ。	きつねはとらの所に 行って何をとらと 話をするんだ。	ちやでないとやうんが なんでも牛も道もわ ちやでないとやうんが きつねをしんじて きつねはとらの所に 行って何をとらと	食べないと思つて 卑しん(卑全)だ と思つた。 たいへんだ！また しんじてしまつた！ なんでも牛も道もわ ちやでないとやうんが	そのときの気持ち